



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 アシードホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 9959 URL <https://www.aseed-hd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河本 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員経営企画グループ (氏名) 川崎 弘敬

TEL 084-923-5552

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	16,104	8.4	730	14.9	957	15.1	629	19.8
2022年3月期第3四半期	14,853		635		831		525	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 756百万円 (32.0%) 2022年3月期第3四半期 573百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	53.55	
2022年3月期第3四半期	42.62	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっているため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	16,299	5,707	35.0	484.96
2022年3月期	15,112	5,104	33.8	434.43

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 5,707百万円 2022年3月期 5,103百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		6.00		6.00	12.00
2023年3月期		8.00			
2023年3月期(予想)				8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2023年3月期 第2四半期配当金、期末配当金の内訳: 普通配当 7円00銭、創立50周年記念配当 1円00銭

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	3.7	820	26.7	920	1.8	600	236.0	49.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) アシード株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	13,495,248 株	2022年3月期	13,495,248 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,726,963 株	2022年3月期	1,746,763 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	11,760,365 株	2022年3月期3Q	12,329,045 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8
(企業結合等関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、エネルギー・資源を中心とした原材料のコスト高から数多くの商品・サービス価格が上昇するなど不安材料はあるものの、新型コロナウイルスの感染抑制と経済活動の両立が進む中、街や観光地に人出が回復して景気は持ち直しの動きが見られます。

そのような環境の中、昨年11月20日にアシードホールディングス株式会社は創業50周年を迎えました。50周年を機にグループビジョン「ASEEDING THE FUTURE 人、地球、未来 — すべての笑顔と健康のために」を掲げ、お客様と社員、地球（環境）、未来社会が笑顔と健康に包まれるように、アシードグループ一丸となって良い種まきの取組みを推進してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、自販機の売上回復等により売上高は16,104百万円（前年同四半期比8.4%増）、営業利益730百万円（同14.9%増）、経常利益はベトナム・HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company（持分法適用関連会社）の好調もあり957百万円（同15.1%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、株式会社いいじま（アシード株式会社100%子会社）に対するのれんの減損損失を計上し629百万円（同19.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載しております。

① 自販機運営リテイル事業

自販機運営リテイル事業におきましては、昨年10月1日、北関東ペプシコーラ販売株式会社がアシード株式会社を吸収合併し、新たに「アシード株式会社」を発足させました。独立系No.1オペレーターを目指し、オペレーション効率を上げ収益性の改革に取り組んでまいります。

飲料ウェルネスにつきましては、アシードブランドの認知度向上を目的としてブランディングチームを立ち上げ、Instagram・Twitterを通じて「社員のおつまみレシピ」や「商品紹介」など親しみやすいテーマで発信し、販売強化に繋げております。

この結果、自販機運営リテイル事業の売上高は9,836百万円（前年同四半期比2.8%増）、セグメント利益は154百万円（前年同四半期は11百万円のセグメント利益）となりました。

② 飲料製造事業

飲料製造事業におきましては、電力・ガス価格の高騰に対応した製造経費の見直しを進める一方、受注は好調を維持し、前年同四半期を上回る売上高を達成しました。特に人出が回復し屋外での活動が増えていく中、スポーツシーンで好評のパウチ飲料や飲食店で提供されるビン容器飲料の需要が旺盛となり、受注増に繋がってきております。

昨年8月にグループ入りした株式会社河村農園は、九州産原料を使用した機能性表示食品のごぼう茶や桑の葉茶など健康茶の販売が引続き好評に推移しております。

この結果、飲料製造事業の売上高は5,990百万円（前年同四半期比18.3%増）、セグメント利益は804百万円（同6.2%増）となりました。

③ 不動産運用事業

不動産運用事業におきましては、当社及びアオンズエステート株式会社を中心に所有不動産の運用を行っており、不動産運用事業による売上高は102百万円（前年同四半期比0.2%減）、セグメント利益は152百万円（同2.2%減）となりました。

なお、売上高はセグメント間の内部売上高163百万円を含めると266百万円となります。

④ その他事業

その他の事業におきましては、物流・環境事業を運営するロジックイノベーション株式会社は、両事業の収益基盤拡大に取り組むと共に、将来に向けたグループ全体の物流効率化に着手しています。

この結果、その他事業の売上高は174百万円（前年同四半期比52.7%増）、セグメント損失は3百万円（前年同四半期は3百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は6,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ566百万円増加いたしました。これは現金及び預金の増加623百万円、受取手形及び売掛金の減少314百万円、商品及び製品の増加85百万円、原材料及び貯蔵品の増加55百万円、前払費用の増加35百万円及びその他の増加78百万円等によるものです。また、固定資産は10,201百万円となり、前連結会計年度末に比べ619百万円増加いたしました。これは建物及び構築物(純額)の減少40百万円、機械装置および運搬具(純額)の減少146百万円、建設仮勘定の増加717百万円、のれんの増加86百万円、投資有価証券の増加196百万円、長期前払費用の減少100百万円及びその他の減少70百万円等によるものです。

この結果、総資産は16,299百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,186百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は8,742百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,064百万円増加いたしました。これは買掛金の減少307百万円、短期借入金の増加900百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少100百万円、未払金の増加518百万円、未払法人税等の減少126百万円及びその他の増加110百万円等によるものです。また、固定負債は1,849百万円となり、前連結会計年度末に比べ481百万円減少いたしました。これは長期借入金の減少375百万円及びリース債務の減少53百万円等によるものです。

この結果、負債合計は10,591百万円となり、前連結会計年度末に比べ583百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は5,707百万円となり、前連結会計年度末に比べ603百万円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益による増加629百万円、剰余金の配当による減少164百万円及び為替換算調整勘定の増加109百万円等によるものです。

この結果、自己資本比率は35.0%(前連結会計年度末は33.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月13日「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	904	1,528
受取手形及び売掛金	2,378	2,063
商品及び製品	1,286	1,372
原材料及び貯蔵品	208	263
前払費用	225	261
その他	532	611
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	5,531	6,098
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,698	1,657
機械装置及び運搬具(純額)	1,470	1,323
工具、器具及び備品(純額)	50	43
土地	3,837	3,849
リース資産(純額)	432	393
建設仮勘定	196	914
有形固定資産合計	7,685	8,182
無形固定資産		
のれん	73	159
ソフトウェア	35	44
リース資産	22	38
その他	24	24
無形固定資産合計	156	266
投資その他の資産		
投資有価証券	939	1,136
長期前払費用	311	210
繰延税金資産	65	39
その他	478	407
貸倒引当金	△54	△42
投資その他の資産合計	1,739	1,751
固定資産合計	9,581	10,201
資産合計	15,112	16,299

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,548	2,240
短期借入金	2,480	3,380
1年内返済予定の長期借入金	690	590
リース債務	296	230
未払金	624	1,142
未払法人税等	205	79
未払消費税等	86	113
賞与引当金	126	60
未払酒税	433	608
その他	187	298
流動負債合計	7,678	8,742
固定負債		
長期借入金	1,608	1,233
リース債務	352	298
退職給付に係る負債	133	137
その他	234	179
固定負債合計	2,330	1,849
負債合計	10,008	10,591
純資産の部		
株主資本		
資本金	798	798
資本剰余金	1,012	1,012
利益剰余金	4,611	5,077
自己株式	△910	△900
株主資本合計	5,512	5,988
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28	45
土地再評価差額金	△465	△465
為替換算調整勘定	29	138
その他の包括利益累計額合計	△408	△281
新株予約権	0	—
純資産合計	5,104	5,707
負債純資産合計	15,112	16,299

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	14,853	16,104
売上原価	8,900	9,822
売上総利益	5,953	6,281
販売費及び一般管理費	5,317	5,551
営業利益	635	730
営業外収益		
持分法による投資利益	102	157
投資事業組合運用益	31	9
助成金収入	54	37
為替差益	2	10
その他	52	77
営業外収益合計	243	291
営業外費用		
支払利息	30	24
支払補償費	—	14
その他	17	25
営業外費用合計	47	64
経常利益	831	957
特別損失		
固定資産除却損	2	17
有価証券評価損	3	—
減損損失	0	34
持分変動損失	—	14
特別損失合計	5	66
税金等調整前四半期純利益	826	891
法人税、住民税及び事業税	261	232
法人税等調整額	39	29
法人税等合計	301	261
四半期純利益	525	629
親会社株主に帰属する四半期純利益	525	629

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	525	629
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	17
持分法適用会社に対する持分相当額	45	109
その他の包括利益合計	47	127
四半期包括利益	573	756
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	573	756

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、当社が株式会社河村農園の全株式を取得し、新たに子会社としたため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったアシード株式会社は、当社の連結子会社である北関東ペプシコーラ販売株式会社(現アシード株式会社)を吸収合併存続会社とする吸収合併が行われたことにより消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

(連結子会社間の吸収合併)

(1) 企業結合の概要

① 結合当事者企業の名称及び事業の内容

(吸収合併存続会社)

名称：北関東ペプシコーラ販売株式会社

事業内容：自販機運営リテイル事業

(吸収合併消滅会社)

名称：アシード株式会社

事業内容：自販機運営リテイル事業

② 企業結合を行った主な目的

自販機運営リテイル事業における経営資源の有効活用及び効率化・合理化を図り、経営基盤の強化を目的としております。

③ 企業結合日

2022年10月1日

④ 企業結合の法的形式

北関東ペプシコーラ販売株式会社を吸収合併存続会社、アシード株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併

⑤ 結合後企業の名称

アシード株式会社(合併後、北関東ペプシコーラ販売株式会社がアシード株式会社に社名変更)

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造 事業	不動産運用 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,571	5,063	103	114	14,853	—	14,853
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5	303	164	48	522	△522	—
計	9,577	5,367	267	163	15,375	△522	14,853
セグメント利益	11	757	155	3	928	△292	635

- (注) 1. セグメント利益の調整額△292百万円には、セグメント間取引消去3百万円、のれんの償却額1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△298百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. その他事業はアシードロジスティクスセンターにおける物流事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

自販機運営リテイル事業において、当社の子会社である北関東ペプシコーラ販売株式会社が株式会社いじまの全株式を取得し子会社化したことにより、新たにのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において45百万円であります。

その他事業において、当社がロジックイノベーション株式会社の全株式を取得し子会社化したことにより、新たにのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において31百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造 事業	不動産運用 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,836	5,990	102	174	16,104	—	16,104
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	321	163	26	521	△521	—
計	9,845	6,311	266	201	16,625	△521	16,104
セグメント利益	154	804	152	△3	1,107	△376	730

(注) 1. セグメント利益の調整額△376百万円には、セグメント間取引消去1百万円、のれんの償却額0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△378百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他事業は倉庫・物流・環境事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

自販機運営リテイル事業において、のれんの減損損失33百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

飲料製造事業において、株式会社河村農園の全株式を取得し子会社化したことにより、新たにのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において128百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。